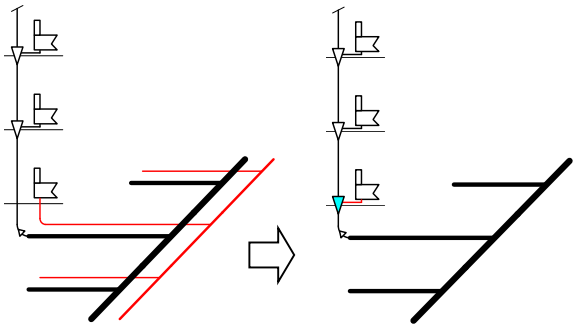
設備工事情報シート	衛生	Ⅱ－P－39	制 定	2008年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	最下階排水横枝管合流方式		クボタ編	

1．目的・概要

従来別配管としていた最下階排水を、立て管系統に合流させることで、より合理的な排水システムを実現する。
(1)管路の設計・施工工数を低減し、コストダウンを図る。
(2)配管経路を統合することで、レイアウト上の制約を低減し、施工性・設計自由度の向上を実現する。
(3)最下階系統の横枝管・横主管部分での詰まりを防止する。
(4)配管経路をシンプルにすることでメンテナンス等 の作業性向上を実現する。

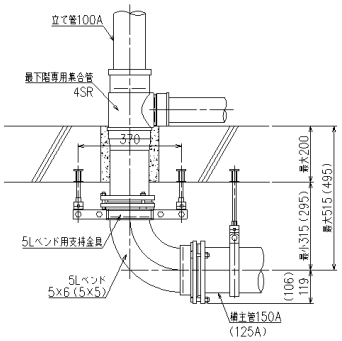
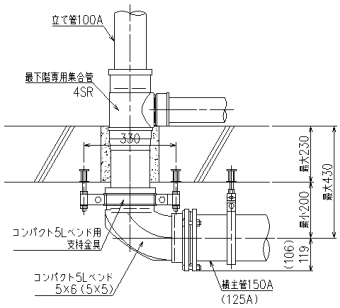
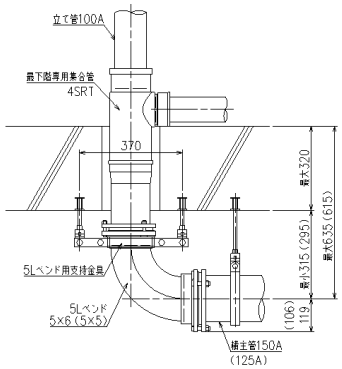
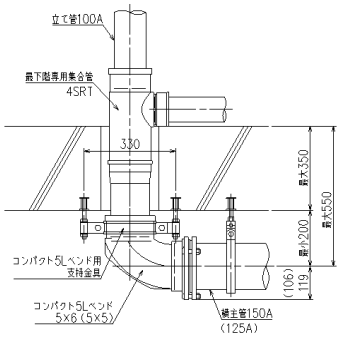
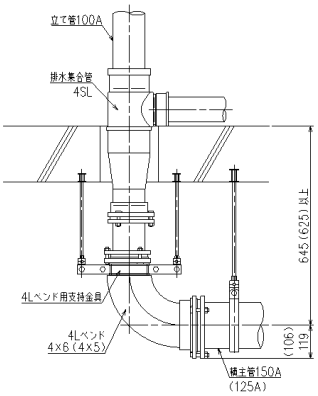


最下階単独配管　　最下階合流配管

2．適用範囲

(1)立て管100Aの最下階専用排水集合管(4SR・4SRT)との組合せ又は通常集合管を使用。
(2)4SRシリーズは最下階排水専用（立て管中間階での使用不可）。
(3)4SRシリーズは専用脚部ベンド（5Lベンド、コンパクト5Lベンド）と直接接続して使用。

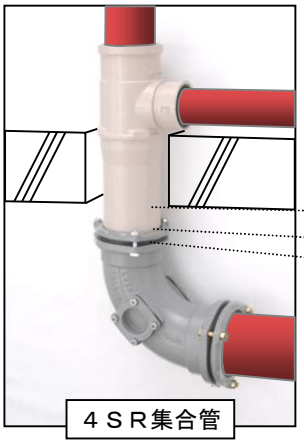
3．施工例及び施工上の留意点

4SR施工例	  （ ）内は横主管125Aの場合	①スラブ天～横主管芯が465mm～515mm以内の場合は4SR集合管を用いる。 ②垂直方向への長さ調整については集合管下部の差し口部分を切断加工する。 ③必ず5Lベンド又はコンパクト5Lベンドを直付けして使用し、横主管径は原則150Aとする。（5階規模以下は125A可） ④脚部ベンドは専用の支持金具等でしっかりと固定する。
4SRT施工例	  （ ）内は横主管125Aの場合	①スラブ天～横主管芯が525mm～635mm以内の場合は4SRT集合管を用いる。 ②垂直方向への長さ調整については集合管下部の差し口部分を切断加工する。 ③必ず5Lベンド又はコンパクト5Lベンドを直付けして使用し、横主管径は原則150Aとする。（5階規模以下は125A可） ④脚部ベンドは専用の支持金具等でしっかりと固定する。
4SL施工例	 （ ）内は横主管125Aの場合	①スラブ天～横主管芯が645mm以上の場合は、最下階専用集合管は使用せず上階と同じ集合管を用いる。 ②垂直方向への長さ調整については集合管下部と脚部ベンドを接続する短管にて調整する。 ③脚部には必ずLベンドを使用し、横主管径は原則150Aとする。（5階規模以下は125A可） ④脚部ベンドは専用の支持金具等でしっかりと固定する。

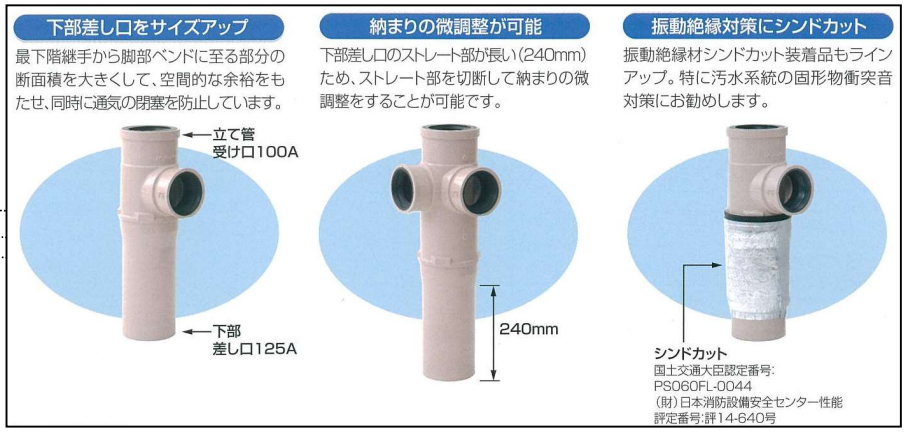
注：この情報シートは日建連の基準、規格ではありません

資　　料

4．製品の特徴



４ＳＲ集合管



ＳＲシリーズ専用
コンパクトＬベンド

従来Lベンドと比較して、**横主管レベルを約100mm上げられます。**
・エントランスの天井高を確保するために
・立体駐車場/駐輪場と干渉させないために
・梁せいを変更せずに配管を貫通させるために
・浅い桝に対し適正な勾配を確保するために
納まりが問題となる様々なケースでご使用いただけます。

ご注意
本製品の立て管受け口は差込み形ゴムリング接合です。自重による抜け・落下を防止するために、必ず最初に専用支持金具で本体を固定してください。

5．最下階排水横枝管合流方式採用時の留意

最下階排水器具までの距離が近く、脚部ベンドより下流側の横主管の状況に影響されやすいため、
最下階合流方式を採用するにあたっては、特に以下の点に注意する
(1)横主管に水平曲がりがある場合は、大曲り継手を使用し、曲がり間の距離を1m以上確保する。(図1参照)
(2)専用横主管が共用横主管に合流する場合は、立て管脚部からの距離を2m以上確保する。(図2参照)
(3)専用横主管が共用横主管に合流するまでに僅かな立ち下げが発生する場合は、90°大曲り継手を上下で偏芯して45°で立ち下げる。(垂直オフセット禁止。図3参照)

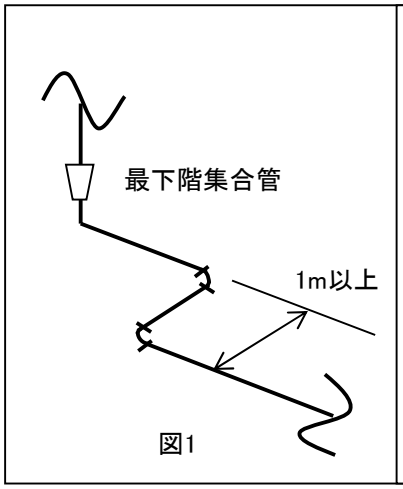


図1

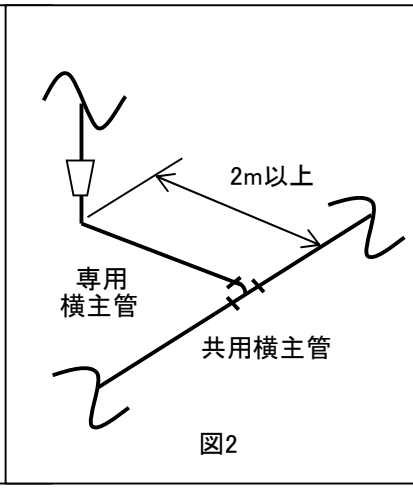


図2

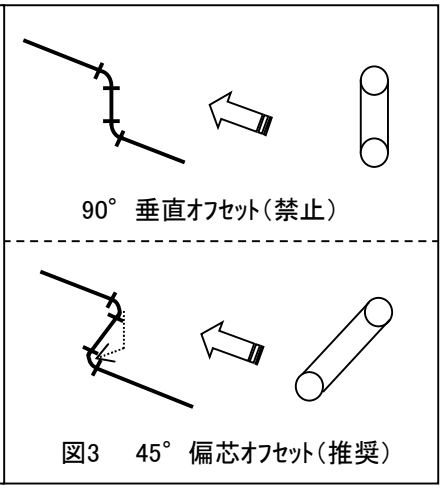


図3　45° 偏芯オフセット（推奨）

6．問合せ先

クボタシーアイ株式会社　設備・プラント営業部

東日本エリア（関東・甲信越・東北・北海道）　東京本社　担当：橋本　TEL03-5246-7897　又は弊社営業担当まで
西日本エリア（近畿・東海・中四国・九州）　　本社　　担当：岸本　TEL06-6648-2265　又は弊社営業担当まで

注：この情報シートは日建連の基準、規格ではありません